

地域密着、女ゴコロ密着の企画力が勝負 全国「リビング新聞」編集長の、 「私たちの読者はこれで動く！」

日本全国に、自分たちの「リビング新聞」を発行する地域に腰を据え、読者である女性たちを喜ばせ、動かすことに日々知恵をしぼり続けている編集長がいます。どの地域でも少ないスタッフを遣り繰りし、企画から実施までを行い、結果は成功あり、もちろんときどきは失敗もあり…。その豊富な経験の中から、「この企画なら読者が動く、動いた」という実感のこもった事例を教えてくださいました。地域に密着し、女性の気持ちに密着した企画は「人を動かす」ヒントの宝庫です。

Denen Toshi

サンケイリビング新聞社
リビング田園都市
林ひろ子
編集長



「DENTO majo ブログ」を通して
田園マダムの暮らしに密着

2010年秋からスタートした田園都市限定の地域サイト「DENTO majo ブログ」。田園都市で暮らす5人の怪しい美女が毎日交代で更新して贈る、笑いのため息の本音ものぞくデイリーなユニークサイト。人には教えたくない美 majo 情報、グルメ&エンタメ Info が満載。11月には3000人集客を誇る恒例イベント告知に、ツイッター機能をプラスした特設ページもデビュー。田園お店検索機能も着々準備中です。
http://denen.sl.lcomi.ne.jp/

Shizuoka

静岡リビング新聞社
リビング静岡
松永恵理
編集部 編集長



「温泉へ行こう!キャンペーン」で
伊豆を紹介! 主婦の心をキャッチ

新しい話題やお得な情報を探している主婦はたくさんいます。新春号では「リビング 温泉へ行こう!キャンペーン」を実施。日本有数の温泉地・伊豆にスポットを当て、宿泊施設と周辺の観光を紹介。「無料宿泊券」プレゼントを盛り込んだところ、メディア露出やクチコミで有名な旅館だったこともあり、3000通を超える応募が。「気になっていた旅館が載っていた」という主婦の声が多数あり、読者が求めている情報を提供できるのは、リビング新聞の大きな強みだと感じました。

Yokohama

サンケイリビング新聞社
リビング横浜東 リビング横浜南
川戸真澄
横浜本部 編集長



主婦休みに贈る日帰りバスツアー
「横横☆パラダイス」好評で増発

一年中働く主婦に“リラックス&リフレッシュ”してもらいたいと、読者レポーター情報を厳選したとっておきのバスツアー。横須賀と横浜を同時に満喫できるので、その名も「横横☆パラダイス」。葉山の朝市、横須賀美術館、海を望むホテルのランチバイキング、軍港めぐりクルーズ、横浜中華街散策、みなとみらいの夜景を眺めながらの温泉…と魅力満載。読者のために仕入れ価格交渉も頑張った結果、当初の設定日が満杯となり、別の日に増発。計88人がツアーを堪能しました!

Shounan

湘南リビング新聞社 リビング湘南
リビング平塚・大磯・二宮
福島祥子
編集部 編集長



古都鎌倉の名刹で和の音色にトキメク秋
—「建長寺邦楽演奏会」

秋の北鎌倉…それだけでもしっとり風情を感じるものですが、鎌倉五山第一位で散策に人気の建長寺、しかも龍王殿というめったに入れない場所で行われる演奏会は、まさに女性の心をキャッチ。20年以上の歴史があり、5年前からは鎌倉芸術祭に参加。今年は世界で活躍する太鼓ドラマー・ヒダノ修一さんを中心に、箏、三味線とも今注目の若手アーティストで構成。奏者からも「演奏していて何かが違う」と言わせてしまう鎌倉パワースポットでのイベントは、昼夜とも売完でした。

Tama

サンケイリビング新聞社
リビング多摩
石河久美
多摩本部 編集長



“5歳若返る”が効いた!
主婦休み「プチ外泊セミナー」

若返り食材たっぷりディナー、リンパマッサージ体験、バレエレッスン。主婦休み企画として、地元クライアント「パレスホテル立川」に話を持ちかけ実施した「5歳若返る自分磨き プチ外泊セミナー」は、掲載日早々、定員(30人)を上回る申し込みが! キモは“5歳若返る”というワードと練りこんだイベント内容。参加費1万2000円で、地元のホテルにミセスが外泊(しかも平日)という一見無理がありそうな企画でしたが、読者のハートをつかむことができました。

Machida Sagami

サンケイリビング新聞社
リビングまちだ・さがみ
増淵直子
編集部 編集長



申し込み殺到! 主婦休みの日企画
マクロビオティック料理教室

主婦休みの日のイベントとして、リビングと地元の住宅メーカー、料理研究家とのコラボレーションで実現した企画です。ここ数年人気のマクロビオティック料理を取り上げたところ、配布初日に電話が鳴りっぱなし、キャンセル待ち希望者が続出といううれしい悲鳴に! 年代を問わず根強い人気である“ヘルシー”というテーマ&作った料理をランチとして食べられたのが好評で、「読者に喜んでもらえる企画」となりました。来春にも開催を計画中です。

Tochigi

栃木リビング新聞社
リビングマロニエ
岡田実華
編集企画本部 編集長



秋のビッグフリーマーケットに
来場者 2万 3000人!

郊外の大規模流通「インターパークショッピングスタジアム」の駐車場を借り、ガレージセール形式で行っているこのフリーマーケット。出料金は1500円と安くありませんが、搬入・搬出がラクなこと、商品がよく売れることなどから大人気。6回目となる「秋のビッグフリーマーケット」では、子ども主体のキッズゾーンも併設。合計300区画の募集に600組以上の応募が殺到しました。当日来場者は2万3000人。渋滞を起こすほど大盛況でした。

Fukushima

福島リビング新聞社
リビング郡山
鈴木朱美
編集長



温泉王国・福島のミセスは温泉好き
多彩なプランを上手に活用

湯量豊富、数々の名泉が楽しめる福島のミセスは温泉好き。子育て・介護世代は地元の温泉施設で日帰りプランを満喫、友達や家族とのんびりしたいミドル・シニア世代は、宿泊プランにエステや体験プランをプラスして贅沢に。今年、リビング新聞紙上で地元の温泉特集を数回企画、8月には県内の温泉施設44軒を掲載。「読み応えがあった」「反響が大きかった」と、読者からもスポンサーからも大好評。食事、温泉、おしゃべり…これが福島ミセスの一番のリフレッシュ法です。

Chiba Funabashi Narashino

サンケイリビング新聞社
リビング千葉
西脇英子
千葉本部 編集長



知らなかった小売店の魅力を発見して!
千葉2エリアで、個性的な商店街「ぶらぶらまつり」を開催

「リビング千葉」と「リビングふなばし・ならしの」では、この秋、商店街の中の小さな店をぶらぶらと巡り、試食をいただきながら、知らなかった店の魅力を発見してもらう「商店街ぶらぶらまつり」を開催。千葉エリアでは、千葉中心の4つの商店街と協力。事前に販売した10店舗を巡る手形(500円)は即日300枚完売し、当日売り100枚も瞬時になくなりました。普段は人の少ない商店街に人があふれ、参加者は小さなお店の魅力やおいしさを体験。行列でご迷惑をかけた参加者やお店もありましたが、「また開催して」の声をたくさんいただきました。船橋エリアでは、船橋市商店会連合会と共催で、郊外型の商店街「J.U.J.うきたなら」を会場にチャリティー企画として開催。手形400枚(1枚200円・中学生以上)は、当日1時間で完売。20の協力店から試食やプレゼントの提供を受けることで、商店会連合会が考えている各店のこだわり「1店逸品」を多くの人に知ってもらえたと、高い評価を受けました。

Musashino

サンケイリビング新聞社
リビングむさしの
石川香里
武蔵野本部 編集長



地元の企業・人とコラボレーション
「吉祥寺チャリティーオークション」開催

武蔵野市観光推進機構の設立イベントを企画。模図かずおさんなど地元ゆかりのアーティスト32組に協力を依頼し、サイン入りマンガ原画や映画台本など41点のお宝を集めてオークションを開催。当日は383人の来場者で賑わい、収益金は175万9187円に。収益金で駅前に観光案内板を設置することが決定。「リビング新聞だからこそ、地元の人と企業と行政を結びつけて街をPRできるイベントができた」と、活性化協議会や商店会などから高い評価をいただきました。

Tokyo

サンケイリビング新聞社 リビング東京中央
東京西 東京南 東京 Bay 東京リビング
和田直子
東京統括本部 編集長



高くても価値あるものには参加します
「日本橋老舗のプチ美食旅」

日本橋の老舗店の協力で、お店をぶらり巡るツアーを企画しました。設定した2コース共に、ほかでは味わえない特別ランチをこの日のために作ってもらい、さらに5〜6店舗を回って、行く先々で店長や女将のお話とスイーツ&お茶、お土産つきの贅沢なミニツアーです。参加費は1人8000円とやや高めですが、新聞配布後3日で定員いっぱい。キャンセル待ちも多数出ました。「これはいい」と思うものには、しっかりお金も使うのがミセスです。

Sendai

仙台リビング新聞社
リビング仙台
佐藤美奈
編集制作部・リビング編集チーム 副編集長



みんなが出会いを渴望!
秋開始「リビングおしゃべりサロン」

女性にとっておしゃべりは一番のストレス解消。「友達作りの場を提供して!」という声に応え、この秋から「リビングおしゃべりサロン」をスタート。子どもの有無、年代、在住歴などの共通項が重なるよう、1回目は「転勤ミセス」「大人のミセス」の2コースを設定。特に「転勤ミセスコース」は開始前から盛り上がり、スタッフの番はほぼナシ! 終了時には次回集まる日時を全員で決めていました。まさに出会いを渴望していたことを実感! 今後毎月対象別に行う予定です。

Saitama

サンケイリビング新聞社
リビングさいたま中央
丸山実木
埼玉本部 編集長



夫婦で競馬、女性1人で競艇
主婦だってギャンブルします

主婦はギャンブルが好きじゃない—というのは思い込みです。11月に実施した競馬・競艇イベント。定員各日20人はすぐ埋まり、キャンセル待ちも! 初心者で、女性または夫婦という限定。夫婦参加が3分の1で「これからの人生に夫婦で楽しめるものを」と夫が妻を、妻が夫を誘って参加したそう。女性は1人参加もいました。「今までにない体験をしたい」が参加者の共通の気持ち。固定観念を捨て、楽しい仕掛けでハートをつかみました。

Kashiwa

サンケイリビング新聞社
リビングかしわ
向山奈央子
東葛本部 編集長



「育メンフェスタ」「市長とランチサミット」
に子育て層が集結

つくばエクスプレス沿線エリアをはじめ、“新しい街”が増えている東葛エリア。元気な子育てファミリーが多く、各市ともこうした層へのアピールはとても熱心です。3月にはショッピングセンター内で「育メンフェスタ」を開催。流山市長、育メンタレントの金子貴俊さんのトークショーに約350人が集結。夏休みには5市の市長がそろっての交流イベント「市長とランチ! 親子サミット」を実施し小学生親子34組が出席。各市との強いパイプと、子育て層の集客力で真価を発揮できました。

Kita Kyushu

西日本リビング新聞社
リビング北九州
野尻由香
次長代理 編集長



こどもの日企画 **かわいい子どもの
勇姿に親も祖父母もデレデレ**

こどもの日に向けて、動物園の一日園長&飼育員、花屋さんの一日店員、トロッコ列車の駅員、こどもDJを募集したところ、50人足らずの定員に対し400人近くの応募が。当日は子どもの勇姿を見るために両親だけでなく、双方のおじいちゃん・おばあちゃんや親戚・お友達が見学に。協力先の企業からも評価が高く「来年も同じようなイベントを開催してほしい」と熱望されました。子どもを主役にしたイベントは、注目度が高いだけでなく集客にもつながることを改めて実感しました。

Matsuyama

えひめリビング新聞社
リビングまつやま
小原明美
取締役編集長



**ママが動けばファミリーが動く
典型イベント「キッズフェスタ」**

“子育てファミリーに楽しい一日を”と、「リビングEBC こども博第10回キッズフェスタ」を、10月16・17日に開催。晴天にも恵まれ、4万人を超える子連れファミリーが来場。今回は“こどもの未来は無敵大”をテーマに教育ブースや、こども店長、エンジニア、記者体験などお仕事コーナーを新設し人気を呼びました。各コーナーでは子どももママもはしゃいだり、写真を撮ったりとファミリー&祖父母で楽しんでもらいました。ママが動けばファミリーが動く2日間でした。

Takamatsu

高松リビング新聞社
リビングたかまつ
石川恭子
編集部 編集長



**2日で3万人集客、車を購入した人も！
「リビング大フリーマーケット」**

2010年9月の「リビング秋の大フリーマーケット」には、2日で約3万人が訪れました。10年近く続くイベントで、今もコンスタントに来場者を集めるのは？“お得にお買い物したい”という最近のミセスの節約志向のほか、出店ブースに毎回“ひと工夫”あるのも人気の理由。9月はOHK岡山放送の協力で、「ネットトヨタ香川」「トヨタ香川」をはじめとした企業に出店いただきました(ちなみにヴィッツ2台が売約済み！スゴイ!)。この“集客力”は、他企業からも注目です。

Kagoshima

南日本リビング新聞社
リビングかごしま
内村由美子
編集企画部 編集長



子どもに代わって親が婚活！
「親の良縁お見合い会」が大好評

今年秋に始めた「親の良縁お見合い会」は第1回・2回ともまたたく間に定員オーバーに。すでに3回目の開催も決定しました。「こんな機会を待っていた!」「リビング主催だからこそ参加を決めました」と、子どもの将来を案じる親同士が集う会場は熱気に包まれ、情報交換も活発。創刊28年。コアな読者層が団塊の世代に突入した今、子どもの婚活は彼女たちの大問題。リビング新聞としてシニア世代の問題解決をサポートするビジネスの重要性・将来性を実感しています。

Kumamoto

熊本リビング新聞社
リビング熊本
松田恵美子
編集部 編集長



**リビング×テレビ×クチコミサイトが
コラボした新「お出かけガイド」**

業種やエリアを絞り込んだ営業企画(日帰り温泉特集・上天草レジャー特集など)を積極的にプロモートしています。その代表例が「お出かけガイド」。テレビスポットとの連動プラス地元No.1のクチコミサイト(1日10万件的アクセス)までメディアミックスして大幅リニューアル! 忘新年会やレジャー情報にクーポンや特典を盛り込みながら、家族のお出かけや女子会向けなど多様なニーズに応える情報をカテゴリー分けして紹介。より読みやすくなったと読者からも大好評です。

Fukuoka

西日本リビング新聞社
リビング福岡
帆足リエ
リビング編集統括部部長・統括編集長



**福岡ビギナーさん応援宣言!
「転勤妻の会」**

福岡は転勤族が多い街。そこで企画・実施し、大反響だったのがこの特集とイベントです。成功の要因は、モニター読者組織にアンケートを実施し、悩みや不安の実態把握を行った点。転勤妻のとまどいや思いを紙面化するなど読者の気持ちに寄り添うことで、転勤妻と福岡出身妻との相互理解・交流、転勤妻同士の交流のきっかけをつくり、交流イベントとの連動ですぐにアクションを起こさせました。百貨店等のクライアントからの評価もあがり、引き合いも多い「転勤妻の会」です。

Kyoto

京都リビング新聞社
リビング京都
山舗恵子
編集長



**30代から80代までおしゃれな
ミセスが集う「ワインパーティー」**

時間もお金も余裕がありパワーも十分な“アラ還世代”を中心に、30代~80代の女性に大好評だった「ワインパーティー」。ホテルのレストランでジャズの生演奏を聞き、世界のワインを飲み比べ。生産地の話や料理との相性など難しくすぎないソムリエの話と、チーズ、10種類の料理を用意して5000円。この価格設定と会場のクラス感が、まさにオンナ心を動かしました。1回50人の定員に対し10日間の開催で1000人近い応募が。着物姿の女性や、夫婦参加も目立ちました。

Shiga

滋賀リビング新聞社
リビング滋賀
牧 綾子
編集部 編集長



**女性も欲しいと思った
「滋賀で!自由設計で建てる家」発刊**

自然素材を多用した木の家への人気が高まる滋賀で、4月に「滋賀で!自由設計で建てる家2010年版」を発刊しました。自由設計の家を手掛ける工務店、ハウスメーカーなど39件を紹介。希望者には無料で自宅に届けるという配布スタイルをとったところ、発刊から6カ月間で570件もの申し込みが。女性からの申し込みは半数を超えました。家づくりへの女性の関心の高さをつかみ、女性のニーズにあったムックを発刊できたのはリビング新聞ならではの評価を得ました。

Nagoya

名古屋リビング新聞社
リビング名古屋東
名古屋中央 南山の手 名北かすがい・こまき
中島幸子
編集部 編集長



**「井戸端プロジェクト~おしゃべりCafe~」
ミセスと地域をつなぎ進行中!**

読者同士が情報交換し、つながる井戸端を作りたい!という想いから始まった「井戸端プロジェクト」。その核が「おしゃべりCafe」というイベントで、レクサスのショールームでお茶会を開いたり、農産物販売所で新鮮な野菜を試食したり、この秋には番外編「熱いぜ♪ママさんバンド★フェスティバル」も開催。ミセスが集まりおしゃべりするだけでなく、すべてスポンサー付き。ミセスもスポンサーもリビングもうれしい、まさに3wayコミュニケーションを具現化しています!



40年間、積み上げてきたノウハウの蓄積

「実感知」と「タイミング」で、女性を動かし、地域を動かす

「リビング新聞」は、創刊以来40年間、「女性を動かす」ことだけを考えてきたといってもいい。その中で積み上げてきたノウハウは、とてもひと言で伝えられるものではない。

しかし今回の事例からヒントを拾うとすれば、まず「実感知を生かした細部へのこだわり」、次に「タイミング」がある。例えばケータイサイトの「シュフモ。“普通の主婦”が、いつ、どんなふうにかータイを使うのか。何が便利で何が不便か、微妙な感覚を活かしたサイトデザイン。もちろん調査データや実績データも重要だが、最終的には「だって主婦って、こういうものなんだもん」という「実感知」を

活かした判断は重要で、それを細部に反映していくことが、「私たちのためにコレを用意してくれたのね!」という企画を生んでいる。

次に「タイミング」。実は女性を動かすには、遅すぎるのはもちろんNGだが、早すぎてもいけない。情報が気持ちに染み込んで、そろそろ動きとなるタイミング、でも「もう遅すぎずよね」とは思われないタイミング。それを計るのが、日々「生身の女性」に接しているリビング新聞の編集長をはじめとする社員たちの勤どころだ。2011年も、リビング新聞グループはあくまでも「生身の女性」の反応にこだわることで、女性と地域を動かしていく。

Hiroshima

広島リビング新聞社
リビングひろしま
高山由美子
編集部 編集長



**親子で感動を共有できた
「親子のための ワンコイン上映会」**

「リビングひろしま」創刊30周年記念事業の一つとして、「広島バルト11」様の協力のもと、6月に1週間限定で「アース」を上映。自然の美しい映像を大スクリーンで鑑賞して親子同士が感動を共有し、しかも1人500円という点が大きなポイントでした。初日は入場規制するほど人であふれ、その後も1日1回の上映にもかかわらず日曜200人、平日100人以上が来場。親子の心をとらえたリビング新聞らしいイベントに、映画館からも高評価! 次の上映を検討するほどです。

Fukuyama

福山リビング新聞社
リビングふくやま
岡田千恵
編集部 編集長



**映画館が変身「シネマ&ジャズ
オルガンLIVE in 福山」**

ローランド芸術文化振興財団と福山リビング新聞社主催の「シネマ&ジャズオルガンLIVE in 福山」。会場が映画館というメリットを最大限に生かし、映画音楽×オルガンジャズのコラボを間近で体験できるイベントです。2回目の今年も、満員御礼! スクリーンの映像とともに、日本を代表する実力派の女性ジャズオルガニストが繰り広げる極上の音楽と、お酒も楽しめる大人の空間を演出しました。女性からカップル、熟年夫婦まで評価の高いライブです。

Okayama/Kurashiki

岡山リビング新聞社
リビングおかやま リビングくらしき
新山 錬
編集部 取締役編集長



**子どもたちの宝物になる思い出を…
ファミリー宝探し大会**

年2回の恒例「リビングファミリー宝探し大会」。ルールは、園内に隠されている宝札(木の札)を家族で1枚探し出し、賞品と引き換えるーというシンプルなもの。どんな賞品が当たるかは引き換えてからの楽しみ。それでも、今回(10月17日)も約3000人のファミリーが、開門前から長蛇の列。家族で共同作業する思い出こそ《子どもたちの宝物》と好評継続開催中。この日は協賛各社の方々に反響の大きさを実感していただける特別なイベントデーです。